



「ARCのつぶやき」

令和3年も残り僅かになりました。今年もコロナコロナで明け暮れてしまいました。10月に入り、感染者数が減少を続け、最近では人の往来が以前の日常に戻りつつあるようです。

ロータリークラブにおいても例会のスタイルが元に戻りつつあるのではないのでしょうか？しかしながら飲食を伴う親睦の機会は、感染対策の中で制限を続けています。ロータリーの楽しさをどう創造するか、さらに奉仕活動をどう展開するか、それぞれのクラブでご苦労が続いています。

シェカール・メータRI会長の呼びかけ「Each One, Bring One」への対応に頭を痛めているクラブは多そうです。あるクラブは5人の退会者が出て理由を聞くと、コロナによる経済的事情での退会は1名で、残りの会員はロータリーの活動が減少したことによる不満だったそうです。ロータリーの魅力について改めて考えさせられます。

「メダカはとかく群れたがる」と言います。日本人は「孤高」を重んじるところがあります。コロナ禍で人の交流機会が減少し、「孤高」は増えたと思いますが、ストレスがたまり精神的に病む人、40、50代の男性でも更年期症が増えていると聞きます。寿命を縮める最大の要因は「孤独」であるという研究があります。「孤高」が「孤独」にならないか心配です。

ロータリーはその点多種多様な職業人、専門職の会員が集まり、相談が出来たり、アイデア、ヒントを貰えます。特に若い会員にとって、仕事や人生の悩み解消に効果絶大です。何でも話せる仲間ができることはロータリーの最大の魅力ではないでしょうか？

2690地区のクラブで今年度58名から66名へと8名の増強に成功したクラブがあります。男女4名ずつですべて若い世代です。将来的に衛星クラブ化する予定で、例会を別開催してとのこと。メンバーは会員の2世が中心で、親とは同じクラブには入らないというニーズに応じています。

会員維持にそれぞれ工夫をされていると思います。入会して間がない会員や年配会員へのフォローに気を配る必要があります。「孤独感」の解消にロータリー活動を活かしていきたいものです。

第3地域 ロータリーコーディネーター補佐 庄司 尚史(境港RC)



ロータリーの公共イメージの重要性について

ロータリーを発展させるためには、ロータリーが世界や地域社会の変化に適応し、必要とされる団体として変化していかなければなりません。

そのためにも、将来を見据えたビジョンが必要であり、組織を強化し、ロータリーの基本理念を達成するための戦略計画が重要となりました。はじめに組織を強化するための3つの優先項目が決められ、その一つが「公共イメージと認知度の向上」でした。他は「クラブのサポートと強化」、「人道的奉仕の重点化と増加」であったことはご存じの通りです。即ち、この3つは組織を強化するために関連があり連携をすることによって会員基盤向上につながるようになります。

また、クラブは「クラブ管理運営委員会」、「会員増強委員会」、「公共イメージ委員会」、「ロータリー財団委員会」、および「奉仕プロジェクト委員会」の設置が推奨されるようになりました。2017年度からは、「世界を変える行動人」キャンペーンが始まりました。2019年から優先項目は新たに4つの優先事項に変わり、「より大きなインパクトをもたらす」、「参加者の基盤を広げる」、「参加者の積極的なかわりを促す」、「適応力を高める」と行動計画を推進するようになりました。

公共イメージ委員会の役割は、会員がロータリーやクラブについてどう語るかによって、ロータリーとその活動や基本理念に対する一般の人びとの認識が形づくられます。確固たる公共イメージが築かれれば、地域社会や世界の課題に果敢に取り組み「行動人」としてのロータリアンの姿は、全世界一貫とした姿で、地域社会に知ってもらえるようになるでしょう。

「ロータリーは、さまざまな国や文化、職業のリーダーのネットワークであり、交流を通じてアイデアを広げ、世界中の地域社会で行動をしています」この言葉は、私たちが考えているロータリーを表しているロータリーのエッセンスです。

ロータリーの公共イメージとは、「私たち自身がどう考えるか」だけでなく、「外部の人びとがロータリーについてどう感じるか」を含みます。

「ロータリー」という名を知ってもらうことはもちろん大切ですが、それだけでは十分ではありません。ロータリーの活動とそのインパクトを理解してもらってはじめて、参加への関心が生まれるからです。そのためには、ロータリーについてどう伝えるかがカギとなります。公共イメージを好ましいものにするには、なぜ必要なのでしょう。それは、ロータリーが認知されていても、必ずしもロータリーへの関心や参加に結びつくわけではないからです。

ロータリーでは、各々の会員がブランドの推進者となります。ロータリーを知らない人の認識と理解を深めることができるのは、ロータリーを既に経験している会員をおいてほかにありません。地元市民がロータリーに対して抱く印象は、クラブが地域社会とどう関わるかが大きく影響します。

コロナ禍の中で、暗いニュースがメディアにおいて氾濫する時代だからこそ、それぞれの地域社会で問題解決に取り組み、行動を通じて変化をもたらしているロータリー会員の姿を伝えることが重要なのです。10月24日の「世界ポリオデー」の活動は地域社会に大きなインパクトを与えたと思います。

2750地区主催「世界ポリオデー」トレインジャックプロジェクトの様子をYouTubeでご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=8iW9aQMJTME>

第3地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 山下 皓三(鹿児島西RC)